

参加者のみなさんの感想（一部抜粋）

- ・ 太郎くんのケースの動画で、「こんな風に見える」ということが分かり、とても参考になりました。そして言葉がけよりも、指さしで教えてあげる支援の方がよいということが勉強になりました。担任ではないので、身近でできる支援の方法として、ラミネートもすごく役に立ちそうですし、言葉がけもすごく勉強になりました。知的特別支援学級の子どもさんの音楽を担当しているのでパンチシールは即実践しようと思います。また、ぶら下がりも30秒を目標にがんばりたいと思います。
今日の研修は、机上だけではなく、自ら体験することで困り感を感じ、理解し、具体的な支援方法を学ぶことができたので非常に勉強になりました。次回もぜひこのような研修会を開いていただきたいと心から思いました。そしてもっと多くの先生方が参加したら、LDやADHDの子どもたちが楽しく学校に来られると思います。
- ・ まずは自分のありよう。毎日、どんな自分で子どもたちに接しているか？声のかけかた、教室整備（美）、声のトーンやメリハリなど、毎日の積み重ねが子どもたちの自己肯定感を左右していると思うと、2学期にやるべきことがすっきりしました。技能教科なので苦手な子どもたちに、どれだけ安心して授業に取り組んでもらえるか、アドバイスの的確か、もっと勉強（技術面を磨くこと）することも必要だと感じた。今日は、生徒（子ども）の困難さに気付く時間でもあり、自分の今の姿を振り返るよい時間になりました。
- ・ 発達障害LDの特性について、困難さの実態を体験し、具体的な支援の方法を意見交換したり、講和をしていただいたりして、大変よく分かりました。実際の支援の補助具の「カラスケール」やDVDなど作ってきて下さり、ありがとうございました。紹介していただいた書籍類もとても参考になり、詳しく知りたいと思いました。
- ・ 多くの例を出していただきながら効果的な支援方法を教えていただき大変参考になりました。個別支援が有効になるための大前提には、よりよい学級経営があり、アセスメントとは「謎解きと宝探し」と思う姿勢が大切なんだと感じました。

- ・お土産としていただいたしおりは、自分でも作ろうと思っていたものだったので感激しました。長さ、太さ、大きさ等、対象児童に合わせて（オーダーメイド）使ってみたいと思います。カラーマスは以前から知っていたのですが、色は変えてもいいと聞いて安心しました。こちらも2学期からいろいろとカスタマイズして使ってみたいです。
- ・今日の学習会は生徒の視点に立ち、どんな時に困難さを感じているのか、その時の心情などを体験することができ、とてもいい勉強になりました。いくつかの支援を教えていただきましたが、フラッシュカードを用いての気持ちの切り替え方や、全員が手を上げられるような〇×や二択問題などを使って、クラス全員が授業に積極的に取り組む支援を2学期から実践していきたいです。
- ・子どもたちがどのような感覚で見えていたり書いていたりするか体験することによって、子どもの気持ちが少しわかったように思います。MIMの教材は持っているのですが、活用方法やゲーム的な活動を教えていただいたので、また取り入れていきたいと思いました。絵カードなどの教材のDVDや、教材の紹介がありがたかったです。“セロトニン5”は、子どもたちだけでなく親子さんや教員に対してもとっても大切なことだと思うので、取り入れていきたいと思います。
- ・配慮が必要な児童・生徒が実際にどのように見えたり感じたりしているのかが知れた。また、視覚的・聴覚的にどこでどのようにつまづいているのか、どういった支援や指導をしていけばいいのかも分かりやすく、すんなりと理解できた。生徒・児童それぞれの強みを理解し、どんな風にそこを伸ばし、弱いと思われる部分をよい方向へと導いたり、支援していったらいいのかを考えながら、今日学ばせていただいたことを生かしていきたいと思う。
- ・とても参考になりました。パワーポイントも視覚優位の特性に配慮されていて、とても分かりやすかったです。今まで発達障害に関する講習をいくつか受けてきましたが、実践から理論まで一番勉強になった講習でした。TOMOはうすの活動にも、ぜひ参加させていただきたいです。